

教育



- ・ 令和7年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙行
- ・ 令和7年度宇宙工学講座開講式を開催
- ・ 岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催
- ・ 県内の高校生らが制作した超小型人工衛星「らいちょう」が宇宙へ
- ・ 県内の高校生らが制作した超小型人工衛星「らいちょう」を国際宇宙ステーションから衛星軌道へ放出
- ・ 工学部 櫻田修 教授が第2回東海国立大学機構教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞
- ・ 「ISO14001内部環境監査員養成研修」の修了証書授与式を挙行
- ・ 令和7年度宇宙工学講座閉講式を開催
- ・ 岐阜市教育委員会教育長 水川和彦氏（岐阜大学客員教授）による特別講話「教師とは何者？」を開催
- ・ 令和7年度学位記授与式を挙行

令和7年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙行

【概要】

本学は、令和7年4月7日（月）に、岐阜市民会館にて令和7年度入学式を挙行しました。今年度は、学部学生1,333名、大学院学生651名が本学へ入学し、新たな一歩を踏み出しました。

式典では、入学生に向けて吉田和弘学長が「岐阜大学での学びを通じて、他とは異なった見方や姿勢を持ち、将来を照らす目となって活躍してください。清流と緑に囲まれた美しいキャンパスで、勉学に励み、体を鍛え、友人を作り、次の時代の先導者として成長してください。」と告辞を述べ、入学生代表宣誓として、学部学生代表の丹羽菜月さん（医学部）、大学院学生代表の西紗弥加さん（自然科学技術研究科）それぞれが、「学び、究め、貢献する」ことを宣誓しました。

また、式典後には昨年を引き続いて、学部学生を歓迎するウェルカムセレモニーを開催し、本学卒業生であり、元パイロットインキ株式会社社長の中筋憲一氏が講演を行いました。講演にて中筋氏は「岐阜大学での4年間は今でも私の人生の土台になっています。大学時代に抱いた純粋な夢は意外に実現できるものです。素晴らしいキャンパスで皆さんも夢を追いかけてください。」と入学生へ応援のメッセージを送りました。その他にもウェルカムセレモニーでは、学生団体による活動紹介等を行い、入学生を歓迎する和やかなものとなりました。

岐阜大学は、新たな一歩を踏み出した皆さんが、これからの未来を切り拓いていくことを心から期待しています。



入学式の様子

令和7年度入学式・ウェルカムセレモニーを挙



告辞を述べる吉田学長



学部学生を代表して宣誓する医学部の丹羽さん



ウェルカムセレモニーで講演を行う中筋氏



学生団体による活動紹介の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/4/8	中日	新たな一歩 希望あふれ 岐阜大入学式 1984人意気 込む ～吉田和弘学長、医学部 丹羽菜月さん～
2025/4/8	岐阜	学び究め 地域、世界へ 岐阜大入学式、1984人誓う ～吉田和弘学長、医学部 丹羽菜月さん～

令和7年度宇宙工学講座開講式を開催

【概要】

本学地域連携推進本部地域協学センターと工学部附属宇宙利用研究推進センターは、6月22日（日）に令和7年度宇宙工学講座開講式を岐阜かかみがはら航空宇宙博物館で開催しました。本講座は宇宙工学に関する基礎知識を習得し、今後の人工衛星・ロケット・航空産業で活躍する人材育成を、学校を超えた仲間で行う事を目的に開催したもので、岐阜県内の高校生及び高専生らが出席しました（受講者数：16校103名、聴講者数：1校1名）。

受講生は、岐阜大学教員、JAXA等の講師による最先端の宇宙工学に関する教育をオンラインで受講することができ、11月には国立天文台野辺山宇宙電波観測所とJAXA筑波宇宙センターの見学ツアーも予定されています。

開講式では吉田和弘学長からの挨拶にはじまり、江崎禎英岐阜県知事をはじめとする関係機関からの挨拶のほか、宇宙人材育成事業として実施している缶サットプログラムやぎふハイスクールサット(GHS)の活動報告、GHSの愛称発表などが行われました。また、アメリカ航空宇宙局（NASA）アジア代表のAndy Masciola氏よりアルテミス計画をはじめNASAの宇宙に対する取り組みについての講演もあり、参加した生徒からは宇宙に対する興味がますます高まったといった声も聞かれ、好評を博しました。

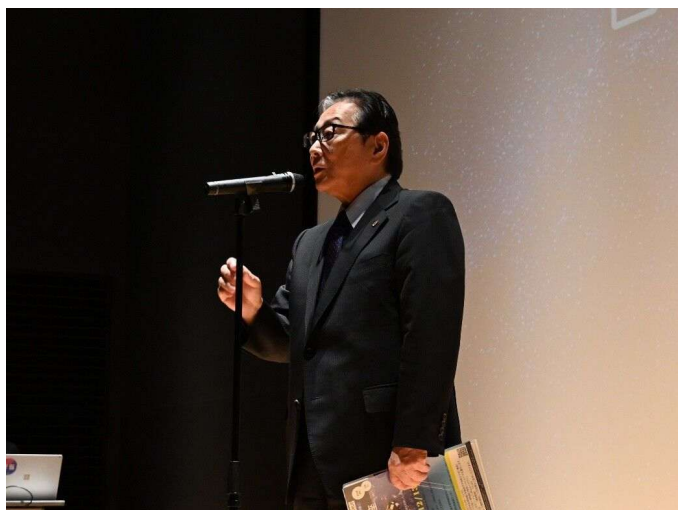
今後、本講座では、12月13日（土）の開講式までに全9回の講義が予定されています。

※宇宙工学講座は、ぎふ宇宙プロジェクト研究会の活動として、また岐阜大学の高大連携事業の一環として、各務原市、岐阜県教育委員会、公益財団法人岐阜かかみがはら航空宇宙博物館、独立行政法人国立高等専門学校機構 岐阜工業高等専門学校、一般社団法人岐阜県工業会、中日本航空専門学校、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）、Planet Science（France）、川崎重工業株式会社、東海国立大学機構 航空宇宙生産技術開発センターの共催・後援・協力の下、実施しています。



集合写真

令和7年度宇宙工学講座開講式を開催



吉田学長による開会の挨拶



江崎岐阜県知事からのご挨拶



高校生によるぎふハイスクールサット報告



アンディ・マッシオーラNASAアジア代表による特別講演

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/6/23	中日	高校生 宇宙の学びに 目がキラリ 空宙博で講座開講式 ～岐阜大主催～
2025/6/23	岐阜	宇宙の世界への入り口に NASA担当者がエール 高校生講座 空宙博で開講式 ～岐阜大主催「宇宙工学講座」～

岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催

【概要】

7月25日（金）に、岐阜県高等学校長代表者との懇談会を開催しました。この懇談会は岐阜県内高等学校と本学の現状と課題について相互理解を深めることを目的に、平成18年度から毎年実施しています。

今年度は、岐阜県高等学校長協会の小野会長（県立岐阜高等学校校長）をはじめ、16名の校長・事務局長をお迎えし、本学からは、吉田学長、益子副学長、杉山副学長はじめ、19名の教職員が参加しました。

懇談会は、吉田学長による「岐阜大学の現状と方針」の説明からはじまり、小野会長及び中村斐太高等学校校長からは「DX・AI、地域連携活動についての高等学校の状況」というテーマで高等学校の現状と諸課題、そして今後の地域と大学との連携についての説明がありました。

その後、本学からは、教学DXと数理データサイエンス教育についての報告や学生ステータスシステムcrescendoを実際に利用している学生によるポートフォリオを中心とした自己管理についての報告、杉山副学長から高大接続事業を中心に本学の地域連携活動についての報告や、社会システム経営学環の学生による秋の高山祭（八幡祭）実習報告がありました。

懇談会を通じて、岐阜県高等学校長協会からは、教育現場の現状を踏まえた高大連携や入試改革など本学への期待をはじめ多くの意見・要望が示され、質疑を交えながら意見交換を行いました。大学と高等学校が双方の現状・課題について理解を深める有意義な機会となりました。

懇談会終了後には、地域連携スマート金型技術研究センターの施設見学を行い、吉田センター長及び学生による概要説明と質疑応答も行われました。

今後も岐阜大学は、県下の高等学校と活発な意見交換を行い、相互理解を深めることで、さらなる連携取組の強化に向けた活動を展開していきます。



吉田学長による説明



小野会長による説明



中村校長による説明



本学学生による報告



施設見学

県内の高校生らが制作した 超小型人工衛星「らいちょう」が宇宙へ

【概要】

岐阜大学を中心に、県内の工業高校や企業が協力して、超小型人工衛星の制作に取り組んだ「ぎふハイスクールサット（GHS）プロジェクト」。その1号機となる「GHS-01『らいちょう』」が8月24日、無事に宇宙へ飛び立ちました。

当日は、工学部附属宇宙研究利用推進センター主催により、OKB岐阜大学プラザ、パブリックビューイング会場の歴史未来館（笠松町）、発射場のあるフロリダ州（アメリカ）を同時中継する打ち上げ応援イベントを開催しました。イベントの様子はYouTubeでライブ配信しました。

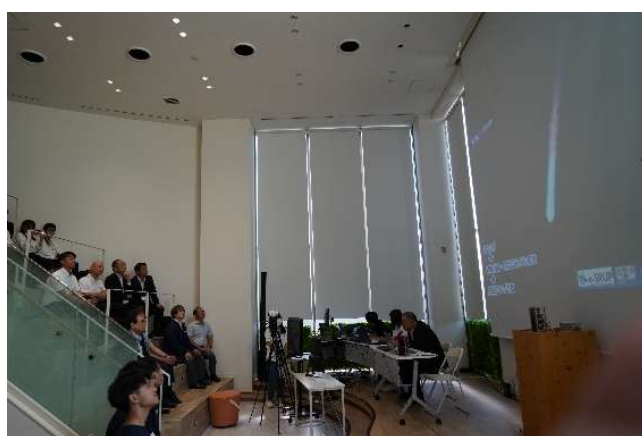
日本時間15時45分に、ジョン・F・ケネディ宇宙センターから、「らいちょう」を載せたSpace X社のロケット「Falcon 9」が宇宙へ飛び立つ姿が画面へ映し出されると、各会場へ集まった本学関係者、岐阜県関係者、地元高校生、OB・OG、企業関係者などから大きな歓声と拍手が沸き起こりました。

吉田学長から、本プロジェクトの参加者に対して「多くの方々のご尽力、ご支援があってこの日を迎えられたことを本当に嬉しく思います。『らいちょう』とともに、皆さんの思いと努力も載せたロケットが宇宙に向かって飛び立っていった様に、皆さんも将来の夢に向かって進んでいって欲しいと思います」と、激励のコメントが述べられました。

今後、らいちょうは国際宇宙ステーション（ISS）・日本実験棟「きぼう」から高度約400kmの軌道へ投入される予定です。放出時にもイベントの開催を予定しておりますので、詳細は本学及び工学部附属宇宙研究利用推進センターの公式サイトにて随時お知らせします。



打ち上げ成功に沸く会場



宇宙へ飛び立つ『らいちょう』を見守る

県内の高校生らが制作した超小型人工衛星「らいちょう」が宇宙へ



コメントを述べる吉田学長



現地の様子を伝える各務校長（飛騨神岡高校）と
鷲見教諭（岐阜工業高校）

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/8/25	中日	県内高校生ら製作の人工衛星「らいちょう」打ち上げに成功 岐阜大、笠松でPV 設計の卒業生「ひと安心」 ～岐阜大と県が企画した「ぎふハイスクールサット（GHS）プロジェクト」～
2025/8/26	日刊工業	高校生が製作 人工衛星宇宙へ 岐阜県、米で打ち上げ ～岐阜大が統括～
2025/8/26	岐阜	「らいちょう」打ち上げ成功 県内工業校生ら開発の小型人工衛星 初号機製作のOB「安心した」 ～県と岐阜大、県内工業高校などが2022年から開発をすすめる小型人工衛星「らいちょう」～

県内の高校生らが制作した超小型人工衛星「らいちょう」を 国際宇宙ステーションから衛星軌道へ放出

【概要】

岐阜大学工学部附属宇宙研究利用推進センターを中心に、県内の工業高校や企業が協力して制作し、8月24日にロケットで宇宙へ打ち上げられた超小型人工衛星「らいちょう（GHS-01）」が、9月19日には国際宇宙ステーション（ISS）日本棟「きぼう」から宇宙空間へ放出されました。

当日は放出の瞬間を見守るライブビューイングイベントが開催され、開発に関わった高校生や本学関係者、江崎 禎英 知事をはじめとする岐阜県関係者、協力企業の皆さんなど岐阜県庁20階の清流ロビーに集まった約70名のほか、リモートで参加した、はやぶさ2プロジェクトチームのプロジェクトマネージャ 津田 雄一 教授（宇宙航空研究開発機構、JAXA）、三上 建治 参事官（内閣府 宇宙開発戦略推進事務局）、長崎県の人工衛星プロジェクトメンバーらはJAXAのYouTube公式チャンネル「JAXA Channel」で、ISSからリアルタイムで配信される映像を通じて「らいちょう」の宇宙への放出を見守りました。

放出時には清流ロビーからもISSへカウントダウンを送り、「らいちょう」が無事に宇宙空間へ放出された映像が流れると、会場は拍手と歓声に包まれました。吉田学長は「放出が成功した瞬間は本当に感動しました。制作に携わった皆さんの夢が実現し、また次の世代の夢へと繋がっていくことを嬉しく思います」と喜びの言葉を述べました。

「らいちょう」は、今後、宇宙からの地球の撮影、音声通信を通じた国際交流などのミッションを行う予定で、引き続き、県内の高校生らが携わっていきます。



吉田学長



江崎知事

県内の高校生らが制作した超小型人工衛星「らいちょう」を
国際宇宙ステーションから衛星軌道へ放出



放出の瞬間の様子



放出成功に沸く高校生

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/9/20	岐阜	らいちょう、宇宙に放出 超小型人工衛星 開発の高校生ら見守る ～岐阜大を中心に県内の工業高校や企業が開発した超小型人工衛星「らいちょう」～
2025/9/20	中日	きぼうから宇宙空間に 県内高校生ら製作 人工衛星 現役生、卒業生ら70人 中継見守る ～県と岐阜大が企画した「ぎふハイスクールサット（GHS）プロジェクト」～
2025/10/1	読売	高校生の衛生 宇宙に一步 ISSから放出 運用開始へ ～宇宙研究利用推進センター長 宮坂武志 教授～

工学部 櫻田修 教授が第2回東海国立大学機構教育 グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞

【概要】

工学部の櫻田修 教授が、第2回東海国立大学機構教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞しました。

本制度は、東海国立大学機構に所属する教員の教育に対するモチベーションを高め、授業の質の向上を目指し令和5年度に創設されたものです。

模範的で特に優れた効果又は成果があったと認められた授業として、岐阜大学からは櫻田教授の授業（全学共通教育科目「岐阜学 環境マネジメントと環境経営」）が選ばれました。「環境マネジメントと環境経営」は、オンライン、オンデマンド、対面及びフィールドワークと多様な授業形態で取り入れた点が評価されました。

8月26日(火)に開催した表彰式では、松尾機構長より「学生時代に"こんな勉強をした"という思い出は一生残り、人生の糧となる。両大学で素晴らしい成果を共有してさらなる向上につなげてほしい」と謝辞が述べられました。

また、9月16日（火）には吉田学長へ受賞報告を行いました。報告では、当該授業が、長谷川典彦 名誉教授、三井 栄 教授（社会システム経営学環）、向井貴彦教授（地域科学部）、三谷 晋 教授（地域科学部）、八代田真人 教授（応用生物科学部）、村瀬哲磨 教授（応用生物科学部）、西村眞一 教授（応用生物科学部）、小林智尚 教授（工学部）、村岡裕由 教授（元環境社会共生体研究センター）の協力により、経営・法律・農学・生物・獣医学・気象災害・森林といった多様な専門分野の視点を取り入れ、さらに、東海地区の行政、企業などから6名のゲストスピーカーによる話題提供、施設見学を行ったことを紹介しました。櫻田教授は「今回、この栄誉ある賞を受賞できましたのは、私ひとりの力ではなく、長年にわたりご協力いただいた皆様のお陰と実感しております。今後もより一層教養教育の発展に邁進して参ります」と抱負を語りました。吉田学長からは「今後も、教員の模範となり頑張っていたください」とお祝いの言葉がありました。

今年度からは授業名を「地域と環境SDGs」と変更し、名古屋大学を始め、岐阜市立女子短期大学、中部学院大学との連携開設科目として再スタートしています。

本学は引き続き、学び、究め、貢献する人材の輩出を目指して、教養教育の質保証と専門教育の基盤確立に努めていきます。



表彰式の様子（左から松尾機構長、櫻田教授）



学長報告

「ISO14001内部環境監査員養成研修」 修了証書授与式を挙行

【概要】

11月11日（火）、「ISO14001内部環境監査員養成研修」の修了証書授与式を開催しました。式には吉田学長、杉山副学長（環境対策室長）、統括環境管理責任者の大谷教授（工学部）らが出席し、岐阜大学と名古屋大学の学生21名に修了証書が授与されました。

岐阜大学は平成15年に地域科学部で環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」を認証取得し、その後、附属病院を除く全学で認証を取得しています。加えて、平成23年からは教職員と学生による内部環境監査を毎年実施し、環境パフォーマンスの向上に取り組んできました。

内部環境監査は、本学の環境マネジメントシステムがISO14001の規格に沿って運用されているかを学内の監査員が確認するものです。連携開設科目※「マネジメント論（マネジメントシステムと監査）」を履修している学生たちは、教職員とともに同規格の概要や監査の実施手順について学内外の講師による研修を受け、実際に内部環境監査に監査員として参加し、学生ならではの視点で監査を行いました。

授与式では、吉田学長から本研修を修了した学生に修了証書を手渡しました。吉田学長は「学生たちは環境への理解を深め、高い志をもって学びを重ねてきた。今回得られた知識と経験を、ぜひ今後の活動に生かしていただきたい」と激励の言葉をおくりました。

その後の意見交換では、学生から「普段接する機会のない学部や部署を監査し、大学や学部の取り組みを知ることがとても有意義だった」「大学の環境への取り組みを知り、自分自身の環境への向き合い方を学ぶ機会となった」といった声も聞かれ、積極的な意見交換が行われました。

岐阜大学は今後も環境教育と実践の場を提供し、学生が地域や社会に貢献できる人材へと成長できるよう支援を続けていきます。

※連携開設科目：

他大学と本学が連携して開設する科目。

名古屋大学の学生は、岐阜大学で開講される連携開設科目を受講することができる。



集合写真（名古屋大学の学生はオンライン参加）

令和7年度宇宙工学講座閉講式を開催

【概要】

地域連携推進本部地域協学センターと工学部附属宇宙研究利用推進センターは、12月13日（土）、宇宙工学講座の閉講式を開催しました。

宇宙工学講座は、岐阜県との高大連携事業として、高校生等に岐阜大学の教育・研究を体験する機会を提供し、次世代を担う高校生に県内航空宇宙産業の魅力を伝えることで、同産業への就業意欲の醸成・喚起を目的に実施しています。今年度の閉講式には約100名の受講生が参加しました。

閉講式では、まず実施機関を代表して吉田学長が挨拶を行いました。続いて、小型缶型模擬衛星を利用する「宇宙甲子園缶サット部門」に参加した県内2校による、岐阜地方大会でのミッション紹介があり、2026年3月に岐阜大学で開催される全国大会への意気込みも語られました。さらに、県内高校生が中心となって製作した小型人工衛星「ぎふハイスクールサットプロジェクト」の紹介があり、8月から9月にかけて実施したアメリカでの打ち上げや国際宇宙ステーションからの放出、その後の運用について報告されました。報告後には、名古屋大学宇宙地球環境研究所の増田智准教授による「激しく活動する太陽」と題した特別講演が行われ、参加した受講生たちは興味深く耳を傾けていました。

式の最後には、佐々木地域連携推進本部特任教授から修了証書が授与されたほか、優秀な課題レポートを提出した受講生には吉田学長より学長賞、森脇宇宙工学講座アドバイザー（前岐阜大学長）より特別賞がそれぞれ授与されました。植松工学部長による閉会の挨拶をもって、令和7年度の宇宙工学講座は盛況のうちに幕を閉じました。



特別講演の様子



特別賞の受賞者



学長賞受賞者



記念撮影

岐阜市教育委員会教育長 水川和彦氏（岐阜大学客員教授）による 特別講話「教師とは何者？」を開催

【概要】

12月15日、教育学部において、岐阜市教育委員会教育長であり本学の客員教授でもある水川和彦氏による特別講話「教師とは何者？」を開催しました。

本講話は、岐阜市教育委員会と教育学部のタイアップ事業「現代学校教育の諸課題～不登校児童生徒対応の体験学習～」の一環として実施したものです。当該事業は、岐阜市教育委員会が「岐阜市内中学校のフリースペースにおいて学生のマンパワーを借り不登校対策の充実を図ること」、教育学部が「不登校対策の体験学習を通じて教員養成プログラムの更なる充実や経験値の高い教師の育成を図ること」を目的としており、今年2月13日に岐阜大学で開催した「岐阜市との連携推進会議」において、柴橋市長の発言を契機に始まったものです。

水川氏は、『教師とは子どもにとってどんな存在なのか、どんな存在であるべきなのか？』について自身の教員経験を踏まえながら教職を目指す学生たちに語りかけました。学生たちも共感を持ちながら熱心に耳を傾けていました。



令和7年度学位記授与式を挙行

【概要】

3月25日（水）、ぎふしんフォーラムにおいて令和7年度学位記授与式を執り行いました。本年度は、学部学生1,260人、大学院学生606人が卒業・修了の日を迎えました。

式典では、吉田学長が告辞を述べ、「教育とは、早く整った『小さな完成品』をつくることではなく、将来にわたって成長し続ける『大きな器をもった未完成品』を育てることにこそ意味がある。」と、愛知県出身の哲学者・教育者である森 信三先生の言葉を引用しながら、卒業生・修了生に向けて、学び続ける姿勢の大切さを伝えました。

修了生代表として連合農学研究科・梅村 悠太さんは、「大学院での研究生生活を通じて得た専門性や粘り強く課題に向き合う姿勢、分野や背景の異なる仲間との交流、切磋琢磨した日々が、これからの人生においてもかけがえのない財産となる」と謝辞を述べました。

さらに、卒業生代表の社会システム経営学環・渡邊 恵奈さんは、「大きな転換をむかえつつある時代において、岐阜大学で培った『問い続ける力』や『つなぐ力』を生かし、より良い社会づくりに貢献していきたい」と決意を語りました。

このほか、在学中に特に優れた学業成績を修めた卒業生・修了生に対し表彰が行われました。



学位記授与



学長告辞



修了生代表謝辞



卒業生代表謝辞



愛唱歌合唱



会場の様子